

慶應義塾大学大学院 文学研究科 修士課程

英米文学専攻

3つのポリシー

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育目標

英米文学専攻では、慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、英語学研究、英文学研究ならびに米文学研究に関する包括的で深い専門知識と研究方法を有し、それに基づいて新たな知を創造し、研究成果を世界に発信する能力を備えた人材の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、修士（文学）の学位を授与する。

資質・能力目標

- （１）英語学研究、英文学研究ならびに米文学研究の分野において、研究領域全般に関する専門知識を身につけ、外国語（英語）を使用して専門的なリサーチを展開し、その成果を日本語および英語で発表できる。
- （２）英語学研究、英文学研究ならびに米文学研究、あるいは関連分野の研究を内容とした修士論文を英語で執筆し、さらに、修士論文のテーマに関連する領域については包括的で深い専門知識を有し、その領域の研究に独自の貢献ができる。
- （３）英語を通じて異文化の文化的・歴史的、地理的特性を理解し、他者と交流を持ち、重要な課題を認識し、それを解決していくための議論や実践に資するリサーチ能力、プレゼンテーション能力を身につけていることで、高度な異文化リテラシーを備えた研究者、教育者、実務家として国際社会に独自の貢献ができる。
- （４）英語・英米文学の研究を通して養った言葉や歴史、文化に対する洞察力や批判的思考力により、現代の人間、文化、社会の様々な課題について分析し、その解決に貢献できる。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成

文学研究科・英米文学専攻（修士）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、英語学、英米文学の領域において、英語学、英語史、中世英文学、近代英米文学、現代英米文学を対象とした講義演習科目群、ならびに文芸批評史、古典文学、言語学、比較文学などの関連科目から構成される教育課程を体系的に編成する。

教育課程の実施

この教育課程の編成のもと、一部の科目を英語で開講し、さらに専攻全体の修士論文中間報告会等の開催を通じて複数の教員から指導を受ける機会を提供する。また文学研究科や慶應義塾大学国際センターによって提供される留学プログラム、さらには学内外の各種留学制度などを活用した海外の大学院への修士学位取得を目的とした長期留学、単位取得や専門的なディプロマ取得を目的とした短期留学を推奨する。

学修成果の評価方法

文学研究科・英米文学専攻（修士）の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②休学や退学の状況などを用いる。

修士論文審査については、論文題目に加えて、主査(原則として指導教員)と2名の副査で構成される審査団の文学研究科委員会による承認、審査団による論文審査、審査団および関連教員による口頭試問を経て、最終的な審査結果を文学研究科委員会で審議、承認する。

資質・能力目標と教育内容との関係

- (1) 英語学研究、英文学研究ならびに米文学研究の分野において、研究領域全般に関する専門知識を身につけ、外国語（英語）を使用して専門的なリサーチを展開し、その成果を日本語および英語で発表できる。
→英語学、英米文学の領域において、英語学、英語史、中世英文学、近代英米文学、現代英米文学を対象とした講義演習科目群を設置するとともに、文芸批評史、古典文学、言語学、比較文学等の関連科目も開講することで、研究を展開するために必要な専門知識、リサーチ能力、一次資料分析能力、思考力および議論構成力を養成する。またこれらの科目の一部を英語で開講することで、英語によるプレゼンテーション能力を養う。
- (2) 英語学研究、英文学研究ならびに米文学研究、あるいは関連分野の研究を内容とした修士論文を英語で執筆し、さらに、修士論文のテーマに関連する領域については包括的で深い専門知識を有し、その領域の研究に独自の貢献ができる。
→修士論文の執筆を可能とするため、指定された指導教員が中心となって個別論文指導を行い、研究テーマについての知識を深めるとともに、高度なリサーチ能力および英語による論述力を養う。また、専攻全体の修士論文中間報告会等の開催を通じて、複数の教員から指導を受け、多角的な視野を身につける。
- (3) 英語を通じて異文化の文化的・歴史的、地理的特性を理解し、他者と交流を持ち、

重要な課題を認識し、それを解決していくための議論や実践に資するリサーチ能力、プレゼンテーション能力を身につけていることで、高度な異文化リテラシーを備えた研究者、教育者、実務家として国際社会に独自の貢献ができる。

→文学研究科や慶應義塾大学国際センターによって提供される留学プログラム、さらには学内外の各種留学制度などを活用した海外の大学院への修士学位取得を目的とした長期留学、単位取得や専門的なディプロマ取得を目的とした短期留学を通じて、異なる環境における高度な異文化リテラシーを身につける。

- (4) 英語・英米文学の研究を通して養った言葉や歴史、文化に対する洞察力や批判的思考力により、現代の人間、文化、社会の様々な課題について分析し、その解決に貢献できる。

→領域横断的な特殊講義演習科目群、さらに他研究科および附属研究所の設置科目、文学研究科と提携関係にある他大学院の設置科目の履修により、広く人文科学領域に関する理解を深め、現代の人間、文化、社会の様々な課題について分析し、その解決に貢献できる力を身につける。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

- (1) 卒業論文執筆や専門科目の履修等を通じて自身の専門領域について理解し、英語学、英文学、米文学の領域全般についての基礎知識を有している。
- (2) 大学院において、何をどのような方法で研究したいのかという研究計画について自ら考え、日本語ならびに英語でまとめることができる。
- (3) 英語の一次資料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる基礎的な読解力、及び学術的内容を英語で論じることができる基礎的なアカデミックなライティングの能力を身につけている。
- (4) 研究資料を講読するための基礎的な第二外国語の能力を有している。
- (5) 修士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的に考えている。

選抜の基本方針

このような入学者を幅広く受け入れるため、コースの入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った入学試験を、次の選抜方法により実施する。

一般入試

四年制の大学を卒業していること、または卒業見込みであること、大学院入学資格を有していること等を出願資格とし、筆記試験（第一次試験）および口頭試験（第二次試験）によって合否判定を行う。具体的には以下の通り。

- (1)筆記試験（選択言語）により、研究資料を講読するための基礎的な第二外国語の能力を評価する。
- (2) 筆記試験（専門科目）により、英語学、英文学、米文学の領域全般についての基礎知識を有しているか評価する。
- (3) 筆記試験（指定言語）により、英語の一次資料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる基礎的な読解力、及び学術的内容を英語で論じることができる基礎的なアカデミックなライティングの能力を評価する。
- (4) 口頭試験により、大学院における研究計画について自ら考え、その研究成果を日本語および英語で発信する能力を評価する。